

厳選されたおすすめ機器のご紹介

期末大感謝セール

第11弾

39

CAMPAIGN サンキューキャンペーン 2024



令和6年 1月5日～3月31日まで

BANZAI 株式会社 バンザイ

本社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: eigyo@banzai.co.jp

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡
郡山・山形・新潟・長野
前橋・宇都宮・水戸・埼玉
千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸
高松・宮崎・鹿児島
- 出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・山陰・長崎
大分・熊本
- 販売会社 バンザイ沖縄販売(株)

<https://www.banzai.co.jp>



ISO9001 認証取得
ISO14001 認証取得

バンザイは、SDGs を推進する
日本ユネスコ協会連盟の維持
会員として支援しています。

BANZAI NEWS

2024
Winter
329

特集
BANZAI NEWS

自動運転技術の進化・ 普及をチャンスにできるお店作り





樹氷と冬の道 北海道

北の国の冬。白く樹氷をまとった木々は雪の路面に青い影を落とし、道は青空へと続いてゆく。十勝岳連峰と夕張の山々に囲まれた富良野盆地の冬は、氷点下の気温に空気も凍りついたよう。パウダースノーに轍を刻んで、丘へと登ってゆく冬の道。

★歳時記

- 1月 1日 元日
- 7日 七草
- 8日 成人の日
- 2月 3日 節分
- 4日 立春
- 11日 建国記念の日
- 23日 天皇誕生日
- 3月 3日 ひな祭り
- 17日 彼岸入り
- 20日 春分の日



●目次

- ★新年のごあいさつ..... ①
- ★特集
- 相次ぐパラダイムシフトへ
- 果敢に挑戦できるサービスショップとなるには?..... ②
- 【第4回】少子高齢化や
- 管理台数増加が進んでも慌てないお店作り
- ★モデルショップ訪問
- 【鳥取トヨタ自動車株式会社 米子東店】..... ⑥
- 働く人の環境と顧客サービスの両面で、
- 高い理想を実現した新店舗が完成
- 【群馬日産自動車株式会社 前橋東部バイパス店】..... ⑧
- 働く人の快適環境と最新機器で
- 信頼に応えるディーラーサービスを提供
- ★ショールーム..... ⑩
- ★EPOCH「バンザイ名古屋トレーニングセンター」オープン..... ⑭
- ★ロータリー..... ⑯
- ★BANZAIガイド..... ⑰

あけましておめでとうございます

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、令和6年能登半島地震により被災された皆さまと、そのご家族、関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。そして一日も早い被災地の復旧・復興をお祈りいたします。

昨年は新型コロナの災禍からウィズコロナ、アフターコロナへ向かう兆しが見え始めた年となりました。この数年の間、世界では各種のリスクに対応できる社会経済のあり方への模索がすすめられ、その中でビジネスやライフスタイルにもAIやWebシステムが大きな役割を占めるようになってきました。

一方、世界が持続可能な開発目標として掲げたSDGsへの対応、とりわけエネルギー問題、脱炭素への取り組みは喫緊の課題となっています。自動車においてもEV、FCVなどクリーンエネルギーへの移行が進められ、また安全で快適なモビリティを目指し、自動運転化のレベルも急速に向上しています。昨年開催されたジャパンモビリティショーでは従来の自動車の枠を超え、陸上交通のみならず多彩なモビリティがプレゼンテーションされ、まさにモビリティ社会の大きな広がりを予見させる画期的なイベントとなりました。

こうした中で、自動車サービスにおいても様々な変化への対応が迫られています。急速な技術面の進化や、すでにスタートしているOBD検査など制度面の変化、さらに人口減少を背景とした人材不足の問題など、自動車サービス業として取り組むべき課題への対応策を、バンザイは「SMART SERVICE 自動車整備のみらいをデザイン」としてご提案しています。人材の確保から「尊重」へ、法令の遵守から「厳守」へ、そして技術の対応から「進取」へ、これら三つのコンセプトを、変化をチャンスとしてとらえ、未来にチャレンジするサービスショップの皆様へのプレゼンテーションとして展開するとともに、「バンザイESG方針」に基づき、事業を通じて環境や社会の課題解決に寄与する活動を推進してまいります。

末文になりますが、皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、本年も倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



株式会社 バンザイ
柳田 昌宏

特集

BANZAI NEWS

相次ぐパラダイムシフトへ果敢に挑戦できるサービスショップとなるには？

第4回

少子高齢化や管理台数増加が進んでも慌てないお店作り

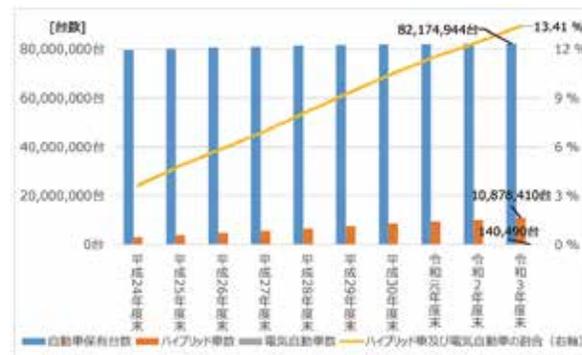
少子高齢化に端を発する人口減少、そして業種を問わない人手不足が年々悪化し、閉鎖・統合されるサービスショップも現れる一方、自動車保有台数はいまだに減少に反転せず微増傾向。サービスショップ一店舗あたり、メカニック一人あたりの業務量・負荷はますます増大しつつあります。

当連載「相次ぐパラダイムシフトへ果敢に挑戦できるサービスショップとなるには？」最終回の今回は、「少子高齢化や管理台数増加が進んでも慌てないお店作り」について考えたいと思います。

人手不足と一店舗・一人あたり 負荷増大、3Kイメージの三重苦。 その理由は？

少子高齢化、人口減少、若者の車離れ、自動車専門学校・大学校入学者数減少、自動車整備技能登録試験受験申請者数減少、自動車整備士有効求人倍率上昇、自動車整備事業場数減少、新車販売台数低下、カーシェアリングの普及などなど……。

サービスショップの皆様にとって積年の課題であり続ける、人手不足の要因については枚挙に暇がない昨今ですが、その一方で、かねてより「いずれ減少傾向に転じる」と言われ続けている自動車保有台数は、いまだに微増傾向。

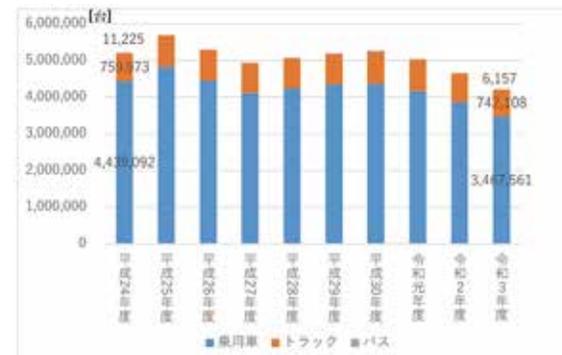


自動車保有台数およびハイブリッド車・電気自動車の台数・割合の推移

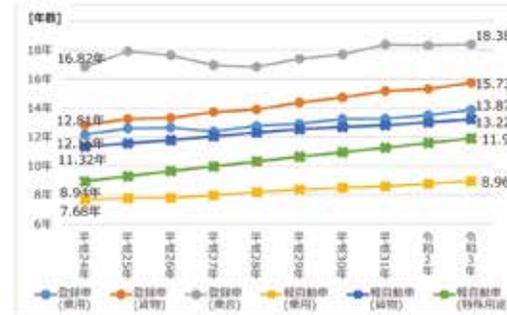
注:各グラフの出典はいずれも国土交通省「自動車整備の高度化に対応する人材確保の対策【中間取りまとめ】～人材確保に向けた自動車整備業のOne Teamをめざして～」

平均使用年数も、年ごとに増減はあるものの、全体としては長期化傾向が続いています。

こうした近況を踏まえ、国土交通省「自動車整備技術の高度化検討会」が2023年3月に公開した「自動車整備の高度化に対応する人材確保の対策【中間取りまとめ】～人材確保に向けた自動車整備業のOne Teamをめざして～」では、「自動車整備工場に持ち込まれる自動車は、年式の新しいものからより古いものまで幅広くなるとともに、より年式の新しいものにあつては、原動機や先進安全技術の種類が多様化しており、点検・整備に必要な知識や技能の量が増えている実感があると自動車整備士や自動車整備事業者から聞いている。特に、先進安全技術等の電子機器類の不調は、自動車整備士等の五感のみに頼って点



自動車販売台数の推移

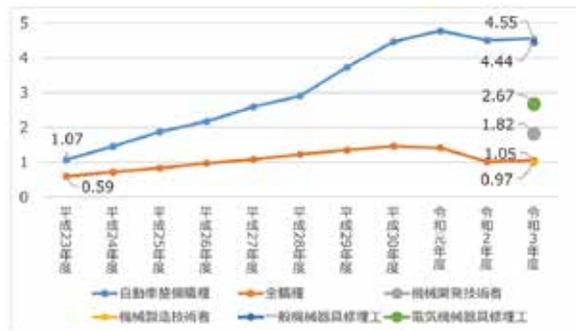


自動車平均使用年数の推移

検・整備することが困難であるため、スキャンツール（外部故障診断器）を使いこなす知識・技能が必須となっている」と指摘。このことから、サービスショップ各店舗とメカニック一人ひとりに求められるものが、量的にも質的にも大きくなっており、しかも経営者とメカニック双方の共通認識となっていることがうかがえます。

そうした状況もあつてか、メカニックの年間平均給与は近年増加傾向にありますが、その実態は広く認識されてはいません。また、国交省が2022年10月に実施した、自動車整備に関する学科に通う高校生を対象にしたアンケートでも、「自動車整備を最初に認識した時の印象」という設問に対し、「責任の大きさと待遇が釣り合わない」「国家資格で、作業内容も大変なのに給料が低い」という回答がネガティブな例として示されています。それは依然として給与の実態とイメージ、さらには労使それぞれが求める給与水準にも、大きな隔たりがあることの傍証と捉えるべきでしょう。

また同設問への回答としては、「重いものでの作業や暑



自動車整備職種等の有効求人倍率の推移



自動車整備事業場数および総整備売上高の推移

いところでの作業が多く大変そうだと思います」「体力が必要で、汚れる仕事」といったものもネガティブな例として示されており、今なおサービスショップに対し3K職場のイメージが根強いことも見て取れます。

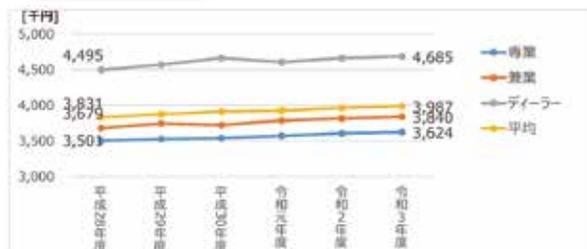
最先端の自動運転・電動車は もちろん今後も残り続ける エンジン車への対応も不可避

こうしたマイナスのイメージは長年の積み重ねによって定着したものであり、これを根本的に覆すのは一朝一夕でなし得るものではありません。だからこそ「一回したからもう終わり」「ウチは関係ない、無理」ではなく、業界全体で不断の努力を続ける必要があります。

その方策として、第一に必要なのはやはり、メカニックの皆様に対する金銭的待遇の抜本的改善です。とりわけ、最新のCASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）技術、または年々現存台数とともにノウハウが失わ



自動車整備要員数および自動車整備士数の推移



整備要員の年間平均給与の推移

れていく旧車、さらに言えば双方の点検整備・修理に対応できる技術力を持つメカニックには、その高い能力に見合った待遇を提供しなければ、それをすぐにでも用意できる他のサービスショップに奪われてもおかしくないと認識すべきでしょう。

次いで求められるのは、省人省力化機器・システムの積極的導入や福利厚生設備の充実です。これにはいくつもの意義があります。

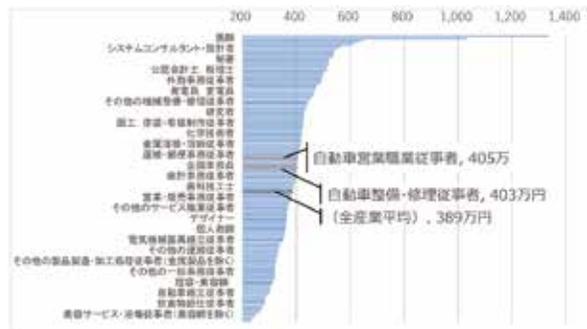
まず、省人省力化機器によって業務効率がアップすれば、前述の待遇改善の原資が生み出せます。また、新たなメカニックを短期間で獲得し戦力とするのは困難を極めるのが現実という中、これまで人の手で行っていた作業を整備・診断機器やシステムに置き換えられれば、人手不足を補う即戦力にさえなります。

そして、福利厚生設備も併せて充実させれば、今いるスタッフのES向上=離職防止、さらには女性や高齢者、外国人など、あらゆる人にとって作業しやすく快適に活躍できる職場の構築、ダイバーシティ(多様性)化の推進も同時に図れます。

加えて、自動車業界全体に対しカーオーナーから厳しい



専修学校(自動車整備科)入学者数の推移



職種別平均給与(企業規模5~9人)

視線が注がれる今、会社の存亡を左右する法令違反を未然に防ぐうえでも、その仕組み作りに寄与する機器・システムは従来にも増して重要なものとなっています。

とはいえ、ただ闇雲に設備を導入・一新しても、それが今、そしてこれからのサービスショップの皆様にとって、現場での作業に役立ち、作業効率・快適性・(法的な意味も含めた)安全性を高め、収益を改善するものでなければ、その意義は薄いと云えるでしょう。

すでに皆様をご承知の通り、CASE技術の中でも自動運転と電動化の技術は、メカニックの皆様が整備知識・技術を習得するのはもちろん、それらの点検整備に対応する機器類を新たに導入しなければならないという点でも、大きな課題となっています。

具体的には、前者は整備用・検査用それぞれの認定を受けたスキャンツール、エイミング用のターゲットや補助ツール、ホイールアライメントテスターなど。後者は車重の



自動車整備科高校生の「自動車整備を最初に認識した時の印象」アンケート結果

重いBEV(バッテリー式電気自動車)に対応する能力の高いリフト、駆動用バッテリーリフター、急速/普通充電器、絶縁工具などが挙げられます。

しかしながら、車両の平均使用年数が長期化傾向にあるため、極論すれば新車販売が明日からICE(内燃機関)のないBEVやFCV(燃料電池車)といったテールパイプZEV(走行時ゼロエミッション車)に絞られたとしても、既存のICE車に対する点検整備のニーズには当面応えていかなければなりません。

つまり、旧来のICE車から最先端のZEVまで幅広く対応できることが、メカニックのみならず整備機器にも求められていることとなります。

バンザイでは、自動車アフターマーケットの情勢変化をいち早く察知しつつ、これまで走り続けてきた、そしていま走り続けている、クルマとカーオーナー、サービスショップとメカニックの皆様をお支えする整備・診断機器を開発・販売しております。また、各種展示会や会合、オンラインなどを通じ、当社が提唱する「SMART」(Sustainable mobility actions realize tomorrow.=持続可能なモビリティアクションで未来を実現します。)サービスショップの構築に向けたセミナーも随時実施いたしております。

新年も皆様と一緒に、この難局を乗り越えて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



BEVの整備にも柔軟に対応できる能力4tのパンタ式アームリフト「イーグルアドパンスリフト」



「検査用スキャンツール」の型式認定第1号を取得し「整備用スキャンツール」の技術要件にも適合する汎用スキャンツール「MST-nano」



ターゲットなどの設置位置情報を収録した専用ソフト「Q.mApp」(キューマップ)と、システムごとに異なるターゲットの図柄を切り替えてディスプレイ上にデジタル表示可能な「eターゲット」を組み合わせたエイミングシステム「Q-DAS」



BEV駆動用バッテリーやエンジン・トランスミッションの脱着にも使える「ユニバーサルマルチリフター」

働く人の環境と顧客サービスの両面で、 高い理想を実現した新店舗が完成

鳥取県内にトヨタ店5店舗、レクス店1店舗を展開する鳥取トヨタ自動車株式会社ではこのたび米子東店の全面リニューアルを完了。「働く環境とカッコ良さ」に細部までの「こだわり」を追求した新店舗、サービス工場としてオープンしました。



新店舗の外観。キャンビーから左へ続く駐車場部分は取材時点で工事中。



斜めの大屋根と木材の質感を採り入れたダイナミックな外観。



ショールームの奥に納車ルーム、サービス工場をレイアウト。



建設中のお客様駐車場。大屋根が駐車場まで連続するデザイン。



本社営業部次長
村松 賢二氏

働く人の声を反映したサービス環境に

米子市の中心市街地から東へ約5キロ、国道9号線に面した米子東店の新店舗は、大きく斜めに勾配をとった屋根が印象的なダイナミックな外観となっています。今回のリニューアル計画を担当されたのは、本社営業部次長の村松賢二氏です。旧店舗は昭和55年からのもので、最新設備への更新が必要とされており、また各ディーラーにおいてサービスの環境改善が課題となっている中で、「サービス工場は働く人の環境があってこそ」との米原社長の一言が計画のコンセプトとなっています。設計にあたっては「山陰エリアはもとより全国のモデルともなるようなサービス工場に」との高い理想を掲げ、またもう一方では「現場のエンジニアの希望をいかに計画にとり入れるか」を重視されたとのこと。そのため機器の選定、レイアウト等にあたっては作業内容、動線などについて、社員全員が参加して計画を立案されたそうです。

計画の細部にも徹底した「詰め」を実施

サービス工場は9ストール。車検1ストール、点検2ストールにタンデムリフトを計3基、クイックの2ストールには3.5トンおよび5トン仕様のワークステージXを各1基、また重整備の2ストールにはパスカリフト4トンワイド仕様を計2基導入し、乗用車はもとより、小型バス・トラックの整備、さらにEVのバッテリー整備への対応も可能としています。また検査ラインにはトリプルテスター、固定式フリーローラーなどのほかネットワークシステムが導入され、検査業務の効率化と同時に検査員の負担軽減が図られています。工場内部は天井高5メートル。ストール幅も4.3~4.5メートルと広さ、リフト能力など、すべてに余裕のスペックとし、また機器の配置などについても「細部まで検討を重ねた理詰めの設計」が新工場の最大のポイントです。



車検、点検ストールにはタンデムリフトを設備。



エアの架台を設置した車検ストール。



クイックストールにはワークステージ2基を設置。



5tのワークステージXは小型トラック、バスにも対応。



パスカリフト4tワイド仕様で重整備、EVにも対応。右ストールには洗車カーテンも設備。



システムキャビネットを全面的に導入。整理整頓を徹底。



検査ラインにはネットワークシステムを導入。エイミングにも対応。



ピットには落下防止ピットカバーを装着。



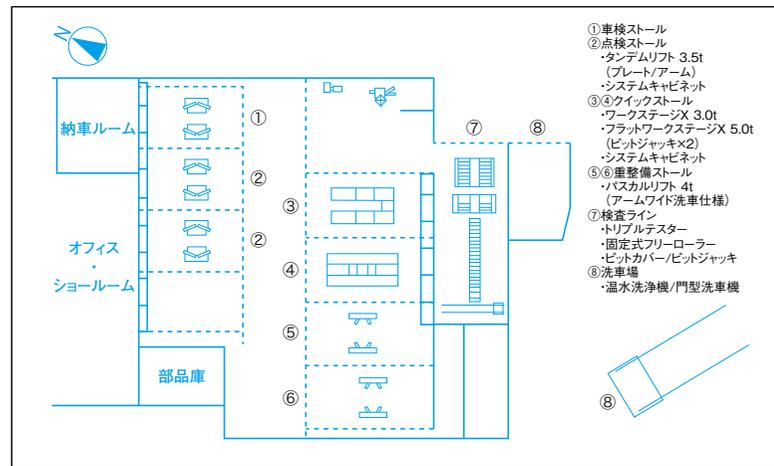
洗車場にもエアコンを完備。FRPグレーチング、側壁の照明も「こだわり」の設備。

人材育成、地域経済への貢献にも期待

環境面では天井を張り、全館空調のエアコンと照明を配置し、明るく快適な作業空間を実現。「自分たちの声が生かされた、働きやすさを実感できる工場に」との思いが込められたスマートなサービス空間として、若手エンジニアからも「カッコ良い!」と好評とのこと。同店では地域柄、旅館業の顧客も多く、また保育園等の通園バスなどの整備ニーズが大きいとのこと。 「コースターの超ロングボディ車、ダイナのアルミバン車など、取り扱い車種の整備に幅広く対応できるサービス工場に」との思いを実現。地域経済と密着する自動車ディーラーとして、新店舗が「地域全体の盛り上げにもつながれば」と期待されています。また、人材の確保、育成が業界全体の課題とされる中、「エンジニアが将来への夢を持って働ける空間に、また子供たちが将来エンジニアを志望してもらえるような工場に」と将来展望を話される村松次長、新店舗では子供向けのイベントなども企画されているそうです。



木の質感を生かし、落ち着いた雰囲気ショールームと商談コーナー。



働く人の快適環境と最新機器で 信頼に応えるディーラーサービスを提供

群馬県内に19拠点の販売・サービス網を展開する群馬日産自動車株式会社では、このたび「前橋東部バイパス店」を建替え新築し、スタイリッシュな外観の店舗および最新設備を導入したサービス工場としてリニューアルオープンしました。



バイパスに面してひとさわスマートな外観でアピール。



広い空間構成が印象的なショールーム外観。屋上は駐車スペース。バイパスの新たなランドマーク。店舗前面の屋外展示場。



サービス部サービス事業推進グループ 課長
鶴淵 一幸氏



前橋東部バイパス店 店長
小林 寛明氏

明るく快適な店舗・サービス環境を実現

前橋市の市街地東部の幹線道路「東部バイパス」に面した新店舗は、前面に大きくガラス張りのショールームをレイアウト。グレーと白を基調とした外観に赤のロゴサインが映えるスマートなデザインです。

今回の店舗計画については、「100メートルほどの至近にあったグループ店の日産プリンス群馬東前橋店を統合する形の新店舗となっています」と前橋東部バイパス店店長、小林寛明氏。お客様に快適なショールーム空間を提供するとともに、車両の進化とサービスニーズに対応する規模、設備のサービス工場を併設されています。

建屋は天井高を高くとり、ショールームおよび隣接する納車ルーム、その奥側のサービス工場まで、明るく快適な空間となっています。また屋上は駐車スペースとして入庫車両の増加にも対応を可能としています。

最新システムで的確な整備、検査を実施

サービス工場は計9ストールにイーグルNXリフト7基、タンデムリフト1基を導入。車検・一般サービス、重整備はもとよりEVのバッテリーサービスにも対応を可能としています。

またアライメントストールにはワークステージXおよび4輪アライメントの導入を予定、「自動運転のレベル3、レベル4を視野に、高度なトータルアライメント、エイミングに対応したい」と、サービス部サービス事業推進グループ課長、鶴淵一幸氏。検査ラインにはスーパーマルチテスターを導入、あらゆる車種に対応してスムーズな検査を行え、またネットワークシステムにより検査作業の負担軽減と同時にコンプライアンス面でも万全の対応を実現。検査業務での法令違反が社会的な問題となる中、同社では「検査は自動化することが理想」として、これら最新設備による的確な検査の実施に期待されています。



グレーに赤のコーポレートカラーが映えるサービスストール。



重整備、EVサービスに対応するワイド仕様のタンデムリフト。



働きやすく快適、ゆとりある作業空間。イーグルNXリフトが幅広い整備に対応。



ドレンキャビネットが清潔な作業環境をサポート。



システムキャビネットで整理整頓を徹底。



スーパーマルチテスターは車種を問わずスムーズな検査を実現。



自動正対/画像処理式ヘッドライトテスター、ネットワークシステムで的確な検査をサポート。



門型洗車機、下部洗浄機を設備。洗車作業の負担を大幅に軽減。



拭き取り作業場には移動式エアリアルを設備。サブスク洗車サービスで来店を促進。

清潔な作業空間で高品質サービスを提供

同社では早くから各拠点でエアコンの導入など環境整備を推進されており、新店舗においても快適な作業環境の実現に力を入れています。工場内も明るいカラーリングと照明、エアコンにより快適な空間を実現。また全てのストールにシステムキャビネットを設備し、作業性と美観に配慮する一方、2週間に一度、エンジニアの担当ストールのローテーションを実施するなど、整理整頓と清潔な職場環境の維持、向上を図っています。

「ディーラーの基盤はお客様、お客様があつてのディーラーです」と鶴淵課長。新店舗では門型洗車機と拭き取りスペース3ストールを併設、「サブスク洗車」サービスのメニュー化により定期来店の促進を図っています。

オープン後、訪れるお客様からも「すごくきれいになったね」と好評とのこと。新店舗における高品質なディーラーサービスが販売・サービスの両面に貢献することが期待されています。



お客様への引き渡しをスマートに演出する納車ルーム。



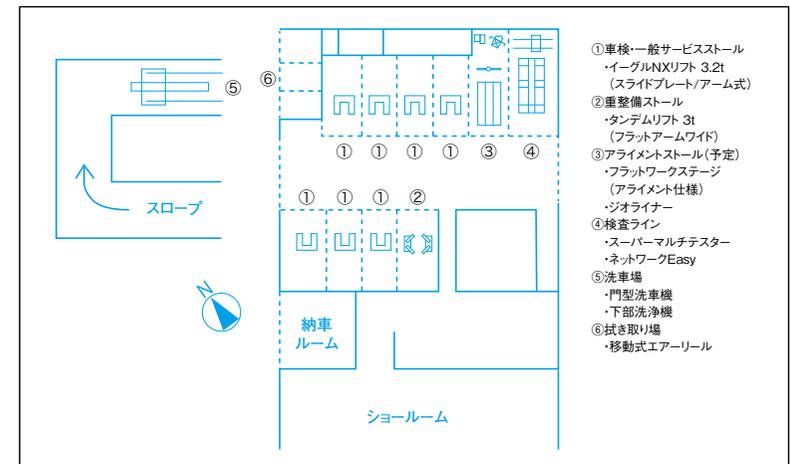
明るく広々としたショールーム、商談コーナー。



おもてなしのスペース、カスタマーラウンジ。



広いオープンスペースにはお客様駐車場、充電設備を完備。



SHOW ROOM

SHOW ROOM

【検査業務効率化システム】ネットワークシステム NW9200

検査機器を自動制御・業務の効率アップと
検査員の負担軽減、コンプライアンス対応に!

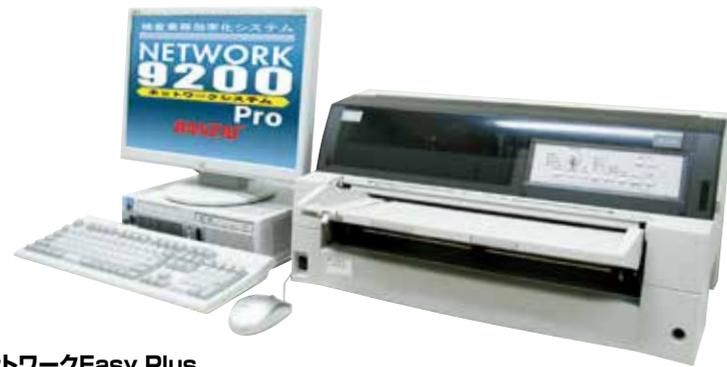
- 各種車検機器をコンピュータで自動制御
- 車両の測定、合否判定をモニターで色別表示

■業務効率の向上

- ・顧客・車両のコンピューター管理
- ・車検帳票類のコンピューター印字
- ・車検証の自動読み込み(OP)

■質の向上

- ・ヒューマンエラーの防止
- ・コンプライアンス遵守
- ・プライバシーポリシーの強化



Net work Pro
処理能力をさらにパワーアップ、
業務ソフトとオンラインを実現。

Net work Easy Plus
合否判定機能を搭載、
さらに導入が容易なシステム。

Net work Light
必要な機能を絞り込んだ
Lightな機能・価格のシステム。

Net work Master
自整業システムとオンライン、
検査項目の印字も可能なシステム。

■仕様

ネットワーク プロ(Pro)

型 式	品 名	説 明
NW9200PCPU-U	検査業務効率化システム NW9200 Pro	検査業務効率化システムの最上位機種 5年間のサポートが付いたソフトウェア ホスト周りのハード機器(ホスト PC、白黒ドットプリンター) ライン周りのハード機器(LCCU(検査ライン制御システム)、ラインモニター)

ネットワーク ライト(Light)

型 式	品 名	説 明
NW9200LPCPU-U	検査業務効率化システム NW9200 Light	指定整備記録簿に車検証情報と検査結果のみを印字するシステム。 5年間のサポートが付いたソフトウェア ホスト周りのハード機器(ホスト PC、白黒ドットプリンター) ライン周りのハード機器(LCCU(検査ライン制御システム)、ラインモニター)

ネットワーク イージープラス(Easy +)

型 式	品 名	説 明
NE91-DT-D(小型) NE91-D2(大型)	検査業務効率化システム ネットワーク Easy Plus	基本機能に限定したベーシックな検査ラインシステム ライン周りのハード機器(LCCU(検査ライン制御システム)、ラインモニター)

ネットワーク マスター(Master)

型 式	品 名	説 明
BFS-V4 シリーズ NE91-DT-D(小型) NE91-NM-OL	検査業務効率化システム ネットワーク Master	ネットワーク Easy Plusと自整業システムを組み合わせたシステム ホスト周りのハード機器(ホスト PC(自整業システム)、白黒ドットプリンター) ライン周りのハード機器(LCCU(検査ライン制御システム)、ラインモニター)

【スキャンツール】バンザイ検査用/整備用スキャンツールシリーズ

検査用/整備用、用途と目的に合わせて選べる、
バンザイのスキャンツールシリーズ

<検査専用機> 検査用としてのみ使用したい!

■MST-nano タブレット+VCI 整備ソフト無
型式:MST-NANO-TAB(※1)

【こんなショップに...】
⇒すでに整備用スキャンツールを複数所持。(MST-3000やG-SCANなど)
⇒特定DTC照会アプリをインストールするためのパソコンやタブレットがない。

【特 徴】
付属タブレットと連動させるため、初期セットアップが比較的容易
特定DTC照会アプリをインストールするパソコン又はタブレットの用意が不要

■MST-nano VCI 整備ソフト無
型式:MST-NANO-U(※1)

【こんなショップに...】
⇒すでに整備用スキャンツールを複数所持。(MST-3000やG-SCANなど)
⇒安価な検査用スキャンツールを希望。
⇒特定DTC照会アプリをインストールするためのパソコンやタブレットがある。

【特 徴】
タブレットレスとなるため、タブレット付属タイプと比較し安価。

<検査/整備 兼用機> 整備用/検査用いずれの用途にも使用を予定

■MST-nano タブレット+VCI整備ソフト有
型式:MST-NANO-FULL(-OBD)(※1)

【こんなショップに...】
⇒新規で整備用スキャンツールを購入予定
⇒整備用としての使用は、国産車がメイン
・特定DTC照会アプリをインストールするためのパソコンやタブレットがない。
・整備用/検査用の使用頻度が半々程度

【特 徴】
付属タブレットと連動させるため、初期セットアップが比較的容易
エーミングデータブックやFainesをタブレットから直接確認が可能。

■MST-nano VCI 整備ソフト有
型式:MST-NANO-SOFT(-OBD)(※1)

【こんなショップに...】
⇒新規で整備用スキャンツールを購入予定
⇒整備用としての使用は、国産車がメイン
・特定DTC照会アプリをインストールするためのパソコンやタブレットがある。
・整備用/検査用の使用頻度が半々程度

【特 徴】
タブレットレスとなるため、タブレット付属タイプと比較し安価
エーミングデータブックの確認が可能。

■MST-7R マルチサポートツール
型式:MST-7R(-OBD)(※2)

【こんなショップに...】
⇒新規で整備用スキャンツールを購入予定
⇒整備用として使用する際には、比較的国産車がメイン。
・特定DTC照会アプリをインストールするためのパソコンやタブレットがある。
・整備用としての使用頻度が高い

【特 徴】
整備用スキャンツールとして使用する場合は、MST-7R本体のみで使用。
スキャンツールホットラインも付属しアフターサポートが充実している。

■MST-7R タブレット付
型式:MST-7R-FULL(-OBD)(※2)

【こんなショップに...】
⇒新規で整備用スキャンツールを購入予定
⇒整備用として使用する際には、比較的国産車がメインとなる。
・特定DTC照会アプリをインストールするためのパソコンやタブレットがない。
・整備用としての使用頻度が高い

【特 徴】
整備用スキャンツールとして使用する場合は、MST-7R本体のみで使用。
スキャンツールホットラインも付属しアフターサポートが充実。付属のタブレットに特定DTC照会アプリのインストールが可能。

※1 OBD検査の際に必要なOBD検査適合キット「MST-NANO-OBD-KIT」が含まれた型式です。
※2 OBD検査の際に必要なOBD検査適合キット「MST-7R-OBD-KIT」が含まれた型式です。

SHOW ROOM

SHOW ROOM

ブレーキディスクレース PRO CUT PFM X9

切削軌道を短時間で自動補正する 自動補正機能(PFM)を搭載!

- 切前前にワンボタンで簡単に切削軌道を最適に自動補正。
- ガレージジャッキ、各種リフトに対応する4輪トロリースタンドを採用。
- 高剛性新型X型フレームに高輝度6LEDを装備。作業性を向上。
- ローター単体でオフザカー研削にも対応(※)
※オフザカーの場合PFM機能は動きません。

仕様

型 式	PFM-X9
適応ディスク径 (mm)	110~ 410
適応ディスク厚さ (mm)	5~ 44
最大切削長さ (mm)	83
最大切削深さ (mm)	0.4
主 軸 回 転 数 (rpm)	118
キャリッジ送り (mm/1回転)	0.13
モ ー タ ー (kW HP)	0.75 1
電 源 (V Hz)	100 単相 50/60
本 体 寸 法 (mm)	約 L910× W580× H350
本 体 重 量 (kg)	約 41



【可視光線透過率計】可視光線透過率計 PT-500

フロントガラス、側面ガラスの透過率測定が簡単・正確に!

PT-500-SET 可視光線透過率計(※)

PT-500 可視光線透過率計

(※)JEMIC校正証明書付き

- ガラス・着色フィルム付きガラスの透過率を数値で表示。
- プリンターで測定結果、年月日、時分を感熱紙に印字。

仕様

型 式	PT-500
測定対象	ガラスまたは着色フィルム付きガラス
表示範囲	0.0~ 100.0%(可視光線透過率)
測定精度	NDガラスフィルターの透過率で± 3%以内
通信方式	Bluetooth (受光部→プリンター)
暖気時間 (s)	10
本体寸法 (mm)	投光部: L153× W50× H46 受光部: L191× W50× H42 プリンター: W79× D110× H44
付 属 品	・記録紙× 1 ・校正アダプター (NDフィルター付き) ・キャリングケース ・専用充電器 (単 3ニッケル水素電池× 4) ・USBコード、ACアダプター



窓ガラスの内側と外側で挟んで光量を測定。

投光部

受光部

【ツールカート/作業台】PCスキャンツールカート/エンジニアカート

診断サービスを効率的に!スマートに!

■ PCスキャンツールカート

- ・KLK-27-7B(青)
- ・KLK-27-7G(黒)
- ・KLK-27-7R(赤)

- 15インチまでのノートPC、スキャンツールをスマートに収納。
- φ100mmの大型キャスター採用。グレーチングも安心。

仕様

品 名	PCスキャンツールカート
型 式	KLK-27-7B/G/R
全 高 (mm)	1,080(キャスター含む)
全 幅 (mm)	600(ハンドル除く)
奥 行 (mm)	500
キャスター径 (mm)	φ 100
重 量 (kg)	33
付 属 品	・ノート PC天板 ・A3サイズ引出し ・収納トレイ ・ハンドル× 2 ・100Vコンセントタップ (4口 15A 3m)



KLK-27-7B

KLK-27-7G

KLK-27-7R

■ エンジニアカート

- ・KLK-27-8

- 作業内容に応じてカスタマイズできるエンジニアカート。
- オイルパン、A3サイズの引出しが付属。
- スプレー類の収納にも便利な脱着出来る収納カゴを付属。

仕様

品 名	エンジニアカート
型 式	KLK-27-8
全 高 (mm)	900(キャスター含む)
全 幅 (mm)	600(ハンドル除く)
奥 行 (mm)	400
キャスター径 (mm)	φ 100
重 量 (kg)	28
付 属 品	・ゴムマット付き天板 ・A3サイズ引出し ・収納トレイ× 2 ・収納カゴ ・ハンドル ・オイルパン



KLK-27-8

分解したパーツ類などの整理・
収納に有効なオイルパン

引き出し

「バンザイ名古屋トレーニングセンター」が 岐阜市内に新規オープン

日本全国のお客様への最新商品実演・ご提案、
バンザイ従業員研修、新商品研究開発の場として活用



ブラックの外壁を基調としたバンザイ名古屋トレーニングセンターの外観。敷地面積269.01平方メートル、床面積176.63平方メートル、駐車台数16台

「バンザイ名古屋トレーニングセンター」が、スキャンツールメーカー・ツールプラネット本社のある岐阜県岐阜市旭見ヶ池町に2023年10月オープン。同年12月1日に報道各社へ公開されました。

トレーニングセンターを備えているバンザイの支店は全国に5ヵ所ありますが、名古屋支店が商圏とする中部地方（愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県）ではバンザイ初のトレーニングセンターとなります。

柳田昌宏社長は記者会見冒頭の挨拶で、「近年の自動車技術の高度化は点検整備の方法も大きく変えてきました。エンジン整備から電子制御に関わる点検整備に変わっていく中で、我々も整備機器の研修施設のあり方を検討してきました」と、同センター新設の経緯を述べました。

そのうえで、「今回メーカーの協力も得て新しい



記者会見の席で名古屋トレーニングセンター新設の経緯と意義を説明する柳田昌宏社長

トレーニングセンターが開設できたことは、自動運転や電気自動車など次世代車に対応した整備機器をご紹介する、お客様向けのセミナーや商品展示説明会、また当社社員を対象とした商品教育にとっても心強いサポートが受けられる環境にあるといえます。そして、メーカーとも協力して新たな商品開発を進める場となることも期待しています」と、同センターが研修や商品展示といった従来のトレーニングセンターの枠に留まらない、新商品研究開発拠点としての役割も担うことを強調しています。

その後、同センターへの導入機器選定やレイアウト設計の中心的役割を担った名古屋支店からは、長谷川忍次長兼販売一課長が登壇し、施設の概要が説明されました。

同センターでは、2023年10月より「OBD検査」



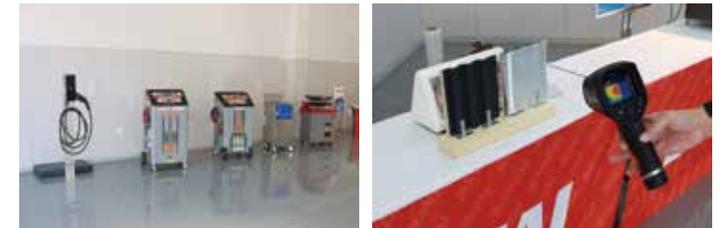
「OBD検査」の核となる検査用・整備用スキャンツール「MST-nano」(左)のほか、エイミング作業時の位置決め、ターゲット設置などを効率化する各種補助ツールも常設



超低床型タイヤリフトを備えるホイールバランサー「トリムBP-68」(左)、レバーレスユニット搭載タイヤチェンジャー「アスリート2LL」(右)



屋内右側には「トータルエイミング」実演のため「ジオライナー680XDモバイルキット仕様」(奥)、「フラットワークステージX 4トン・アライメント仕様」(中央)、「イージートレッド」(手前)などを常設。壁面上部には工業用エアコン「マルキューブ」も設置



現在スポット展示中の整備機器。左よりAC200V充電器「エルシーヴェキアス」、R-134aとR-1234yfの双方に対応する「OKクリマユニカ」、R-1234yf専用「OKクリマアドヴァンス」、ハイブリーダータイプS、「T-MAX1100」

のプレ運用が開始されたのを踏まえ、バンザイが提唱する「トータルエイミング」の関連機器として、検査用・整備用スキャンツール「MST-nano」やエイミング補助ツールのほか、3Dホイールアライメントテスター「ジオライナー680XDモバイルキット仕様」、Xリンク式ドライブオンリフト「フラットワークステージX 4トン・アライメント仕様」、タイヤ溝計測装置「イージートレッド」などを常設展示しています。

また現在、車検入庫車両に対し提案しやすい高付加価値整備に資する機器として、CVT・ATフルードチェンジャー「T-MAX1100」、全自動カーエアコンガス回収再生装置「OKクリマ」シリーズ、一人のメカニックでブレーキフルード交換・エア抜きが可能な「ハイブリーダータイプS」を展示するほか、遮熱塗料「ミラクル」、[IS遮熱シート]な

ど、メカニックの作業環境改善に寄与するアイテムも用意。これらは「お客様のニーズに応じて適宜入れ替えをしていく」

(長谷川次長) 計画です。

バンザイではこの名古屋トレーニングセンターを、中部地方のみならず日本全国のお客様への最新商品実演・ご提案、バンザイ従業員の研修、本社商品開発スタッフの研究開発の場として活用していく予定です。



隣接するミーティングルームでは1回につき約20名までの座学が可能。写真は記者会見中にバンザイの長谷川忍次長が「トータルエイミング」について説明

MSC感動夢工場 第3回研究会を開催



開会挨拶を述べる会長、山崎太氏。

■変化の時代に新たな「未来地図」描く

自動車サービスの先進的経営のあり方を研究する経営者の集まりとして、結成以来2年目を迎えたMSC感動夢工場は10月19日、20日の2日間にわたり札幌市内で第3回研究会を開催、全国より会員各社の参集のもとに活気ある研究会活動を展開しました。

今回の研究会はプロジェクトDの代表、泉山大氏による講演と、株式会社リューターのコバック札幌流通店の見学を主要日程として、自動車サービスにおける各種課題に対する各社の事例共有や意見交換が行われました。

講演では「自動車アフターサービスの未来地図」と題し、講師の泉山氏は自動車整備、車体整備、中古車流通の3つの分野を切り口として、業界の現状と将来展望、さらに変化の時代に直面するサービス業として取り組むべき課題を分かりやすく解説。さらに今後の人材確保へ向けた研究の重要性について、また車体整備における連携、バックアップ体制の構築が必要と強調されました。



講師のプロジェクトD代表、泉山大氏。全国から多数の会員が参加。



■「居心地の良さ、楽しさ」の店舗戦略を探る



コバック札幌流通店を見学。



社長、小川信明氏が店舗コンセプトを説明。



「居心地の良さ」に配慮した店舗空間。

店舗見学は大型車・小型車整備ほか車体整備まで幅広いサービス網を展開する札幌市内の会員企業、株式会社リューターの「コバック札幌流通店」を見学。同店は昨年1月に月寒店と統合し新店舗として拡大オープン、「来店客目線の居心地を重視」した空間づくりをコンセプトに、納車スペースや商談コーナーなど各種設備をデザインしています。さらに「楽しさのある店舗に」と、プラモデルメーカー「タミヤ」の「ミニ四駆ステーション」を併設、「将来のクルマ好きを育てるためのスペース」として役立てることも期待されています。

また2日目は北広島市の北海道ボールパーク内の「エスコンフィールド」を見学。昨シーズンのオープン以来、日本ハムファイターズのホームスタジアムとなった球場施設をスタジアムツアーにより見学。ベンチやロッカールームなど、普段目にするのできない各種施設



ファイターズの本拠地「エスコンフィールド」。



スタジアムツアーにより各施設を見学。

を間近に見て体験する貴重な見学会となりました。



タミヤ認定の「ミニ四駆ステーション」は業界初の開設。

BANZAI GUIDE

「サービスのバンザイ」を担う 全国指定サービスステーションが一堂に結集。

■全国指定サービスステーション会・情報交換会を開催

バンザイではサービス体制強化の一環として、12月7日～8日の2日間、港区高輪のグランドプリンスホテル高輪を会場に、全国のサービスステーションの参加のもとに情報交換会を開催しました。

当日は全国173社・252名の指定サービスステーション会の中から、8地区・15名の代表者が出席。バンザイからは「新中期経営ビジョン」の説明、サービスシステム構築についての報告ののち、各サービスステーションによるサービスの最前線での体験や知見をもとにした各種の問題提起や改善提案など、活発な意見交換が行われました。

バンザイでは「新中期経営ビジョン」のもと、「サービスのバンザイ」を企業信条として、今後ともお客様サービス体制の充実強化に向けた施策を推進してまいります。



柳田社長「サービスは誇るべき企業文化」。



本社経営企画管理室福島室長が「新中期経営ビジョン」について説明。



フリーディスカッションによる活発な意見交換が行われた。

編集後記



2023年は業種、規模の大小を問わず企業にとってコンプライアンス・企業倫理を省みる年になりました。不注意によるミスや組織の意思疎通の問題などを含め、法令違反に伴うリスクは金額的なものだけではなく、企業モラルを問われ、社会的な問題にも発展し、

さらには企業存続の根幹にまでつながります。2024年、全ての企業にとって、企業風土や組織、システムの在り方も含め見直し、問題点の有無を確認し正しい対処が求められます。

<今井>